



子ども相談室だより

No.9

平成29年2月発行

こんにちは。
“子ども相談室だより”第9号を発行します。
今回は“笑顔をお子さんに向けましょう”と
“あなたらしく、うちの子らしい子育て”です。



笑顔は周りの人も笑顔にして 良い親子関係を生みます

生まれたばかりの赤ちゃんが、かわいい笑顔を見せてくれる時があります。それは、赤ちゃんが周囲の人に愛されて育つために生まれ持ってきたものといわれています。

かわいい笑顔を見たお父さんお母さんが笑顔でたくさん関わってくれることにより、2~3ヶ月頃から「自分が笑うとお父さん、お母さんが笑顔で優しくしてくれる」ということを学び、楽しい時や嬉しい時など自分の意思で笑顔を見せてくれるようになります。



「〇〇ちゃん、大好きー」 笑顔をお子さんに向けましょう

最近、お子さんに笑顔向けられていないなと感じている方はいませんか。そんな時は、生まれたときのお子さんのかわいい笑顔を思い出したり、小さな頃の写真を見たりして、鏡の前で「〇〇ちゃん、大好きー」とお子さんの名前を言ってみましょう。

「大好きー」とのばして言うのがポイントですよ。
口角が上がり素敵な笑顔になっていると思います。

それが、できたら今度は、「〇〇ちゃん、大好きー」と笑顔をお子さんに向けてあげましょう。

好きと言われて嫌な気持ちになる人はいないと思います。

中学生・高校生のお子さんにも「〇〇ちゃん、大好きー」と笑顔で言えるといいですね。



あなたらしく、うちの子らしい子育て

・ よその子と比べてしまう気持ち

「お隣の〇〇ちゃんは、もうオムツがとれた、・・もう字が読める。なのに、うちの子はぜんぜん・・・。」焦る気持ちは、子を持つ親の多くが経験することでしょう。あるいは、「〇〇ちゃんは、英会話やスイミングを習っているというから、うちの子もやったほうがいいかしら。」という親心も、よく理解できます。この思いは、「うちの子が、よその子に負けない、立派な大人になってほしい」という、親としての願いから生まれるのかもしれませんが。

それはまた、親としての私が未熟であるから、子どもの成長や発達に影響しているのかもしれないと自分を責める気持ちにつながることもあるでしょう。

・ 唯一の正しい子育てはない

こども相談室は、たくさんの子どもに出会う機会に恵まれています。その中で、子どもの発達は、とても幅の広いものだと感じかされます。また、「子どもがもって生まれた個性が、なんと幅広いことか」と、人間というものの奥行きの高さに驚かされます。そして、どの子も、どの子も、その個性によって、それぞれの方向へ伸びていきます。その子が伸びたい方へ伸びていくことを、家族や先生から許されているとき、子どもの姿からは生命の輝きを感じられます。

あなたのお子さんは、どのようなことを好み、何をしていると、生き生きと輝いているでしょうか。何を苦にして、何に悩んでいますか？よく見て、話を聴き、時に感じとり、試行錯誤の関わりが、自分たち親子の育ちにつながるのだと思います。

時には、お子さんの個性や発達に、迷いを感じることもあるでしょう。そのような時は、周りにいる人の、別の目から、どう見えるのかを、聞いてみてください。周囲の人の、親とは違うまなざしや、関わりも、大切な親子の育ちにつながります。

・ 親もまた、自分でよしとする

今、懸命に子を育てる大人も、かつては個性的な子どもだったのではないのでしょうか。そして、今は、個性的な親になっているのかもしれませんがね。子どもにとって、唯一無二の親なのですから、それでよいのだと思います。社会と折り合いをつけながら、「うちがうち」として、親子を楽しめることを願っています。